

機械器具 32 医療用吸引器  
管理医療機器 電動式可搬型吸引器(36616030)  
(一般医療機器 吸引器用キャニスタ(34858000))

再使用禁止  
(吸引バッグ)

ミニック DC-Ⅱ (MWD2-DSB1000)

【警告】

＜使用方法＞

- 吸引物をポンプ側の吸い込んだ場合は、配管内に溜まる危険があるため、必ず製造販売元または医療機器修理業者による点検を受けること〔故障の原因となる〕
- 本体背面の通気口を塞がないこと。〔本器に熱がこもり故障の原因となる〕

【禁忌・禁止】

＜併用医療機器＞

- 吸引バッグは再使用しないこと。〔単回使用のため〕

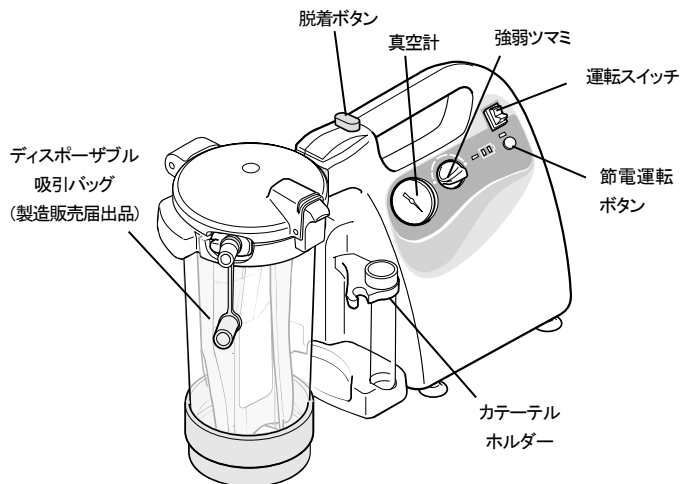
＜使用方法＞

- 6 時間以上の連続運転はしないこと。〔製品内部の温度上昇により故障に原因となる。〕
- 本体各部に注油しないこと。〔発火するおそれがある〕
- 自動車用電源コードで使用する場合は、DC12V の入力電圧で使用する。〔大型車両等は DC24V の場合がある〕
- バッテリーの+端子と-端子を針金等の金属で接続しないこと。〔ショートする危険がある〕

【形状・構造および原理等】\*

1.形状・構造

本器は吸引ボトルとしてディスプレイザブル吸引バッグを搭載しています。吸引キャニスタ・バッグの詳細な使用方法等に関してはキャニスタ・バッグの添付文書を参照して下さい。

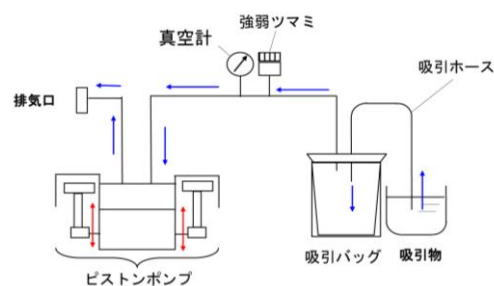


【本製品は EMC 規格 JIS T 0601-1-2:2014 に適合しています】

但し、他の医療機器、電子機器との併用において、相互に影響を及ぼす場合があります。本書に従って正しい取り扱いをしてください。

2.原理

本器の吸引回路は下図のように構成されています。ピストンポンプ内部のピストンが往復運動し、吸気・排気を繰り返します。吸気経路が吸引バッグと吸引ホースにより連結されて、吸引ホース先端に接続されたカテーテル(市販品)より吸引物が吸引され、吸引バッグに溜まります。強弱ツマミを回すとバルブが開閉し外部の空気を吸引することで吸引圧力を調整することができます。吸引圧力はバルブに接続した真空計によって表示されます。



3.機器の分類・電氣的定格

電 源	AC 電源使用時:交流 100V・50-60Hz
	消費電力:100VA
電 撃 に 対 す る 保 護 の 形 式	自動車用電源使用時:直流 12V・4.3A
	クラスⅡ機器
電撃に対する保護の程度による装着部の分類	B形装着部
水の有害な浸入に対する保護の程度による分類	IPX0

4.寸法・質量

本体寸法	幅 395 × 奥 183 × 高 297(mm)
質量	約 4.1kg

＜仕様等＞

吸引圧力(最大)	-80kPa
吸引流量(最大)	通常運転:30 L/分 節電運転:20 L/分
電氣的安全性	JIS T0601-1:2017
電磁両立性	IEC60601-1-2:2014

※上記性能は出荷時のものであり、ご使用の期間・頻度により性能は低下してきます。性能を維持し、安全にお使いいただくために、日常点検、3ヶ月毎の保守点検(ユーザー点検)および2年に1度の製造販売元または修理業者による定期点検を行ってください。

【使用目的又は効果】

本器は医療施設、在宅、屋外等で喀痰等の液体又は粒状物質の吸引に使用する。(カテーテル部分を除く)

【使用方法等】\*

詳細については、取扱説明書の「正しい取扱い方」を参照してください。

1.バッテリーの充電のしかた

本器を初めて使用する前にバッテリーの充電を行います。また、バッテリー残量が減少した時も充電を行います。約3から4時間で満充電になります。

①本器の運転スイッチが「切」であることを確認します。

②本器と電源を接続します。

●AC アダプターを使用する場合

付属の AC アダプターの丸型プラグを本体の電源ジャックに差し込み、反対側の電源コードのプラグをコンセントに差し込みます。  
(本器専用の AC アダプターは、日本国内(AC100V)専用です。AC アダプターを 100V 以外の交流電源で使用する場合は、市販の変圧器(150W 以上)で 100V にしてから接続してください。)

取扱説明書を必ずご参照ください。

## ●自動車用電源コードを使用する場合

付属の自動車用電源コードの丸型プラグを本体の電源ジャックに差し込みます。次に、自動車のエンジンを始動させ、電源プラグを自動車の電源ソケットに差し込みます。

- ③正しく接続されて本器に電源が入ると、充電中ランプが点灯し、充電を開始します。自動的に充電状態となり、既定の充電量(電圧)に達すると充電中ランプが点滅に変わり、充電が完了したことをお知らせします。接続した際に充電中ランプが点滅した場合はバッテリー残量が十分にあり、使用可能な状態であることを示します。
- ※充電中、バッテリーの温度上昇を防ぐため冷却ファンが作動する場合があります。冷却ファンの作動音がしますが、機器の異常ではありませんので引き続き充電してください。
- ※夏場やストーブの近くなど、気温が高い(30℃以上)場所でバッテリー運転を長時間行くと、バッテリー温度が上昇し、使用直後に充電できない場合があります。バッテリーの温度を下げるために 30 分程度放置して、その後充電してください。

## 2.準備

- ①使用する電源を選びます。

バッテリーを長持ちさせるためにも、ご家庭での使用の場合はできる限り AC アダプターで使用してください。同様に、自動車で使用できる限り自動車用バッテリーを使用してください。

- AC 電源で使用する場合は、本器に AC アダプターを接続します。
- 自動車用電源で使用する場合は、本器に自動車用電源コードを接続します。
- バッテリーで使用する場合は、本器に AC アダプター又は自動車用電源コードは接続しません。運転スイッチを「入」にするとバッテリー残量ランプが点灯し目安のバッテリー残量をお知らせします。バッテリーでの作動は、節電運転から作動します。バッテリー残量ランプが 1 個点灯になりましたらバッテリー残量が減少しています。1 個点滅になりますと作動が停止する直前の状態を示します。早めの充電を心掛けてください。バッテリー作動時間は、満充電・無負荷時で通常運転では約 40 分、節電運転では約 60 分です。作動時間はいずれも目安の時間です。ご使用の期間・頻度により、短くなることがあります。
- 本器の残量ランプはバッテリーの電圧を感知して点灯、点滅しています。吸引の負荷がある場合、残量ランプが変化することがあります。バッテリー残量の確認は吸引の負荷がない状態で(無負荷運転)で行ってください。
- ②本器を水平な安定した場所へ置いてください。
- ③吸引バッグをキャニスタに取り付けます。(吸引バッグは帯を外してからキャニスタに取付けてください。)
- ④電源スイッチを「入」にし、本器を作動させます。強弱ツマミを回し吸引圧力を[強]に合わせ、吸引口を塞ぐ⇒開放する、を行い吸引バッグを完全に膨らませてください。吸引バッグの膨らみが確認出来たら、必要な圧力(医師の処方した圧力)に設定します。
- ⑤吸引バッグの吸引口に吸引ホースを差し込みます。
- ⑥吸引ホースにカテーテル(市販品)をつなぎます。カテーテルが吸引ホースに接続可能なことを確認してから使用してください。

## 3.操作

- ①運転スイッチを「入」にしますと、本器が作動し吸引を始めます。
- ②節電運転で使用する場合は、節電運転ボタンを押します。節電運転中は節電運転ランプが点灯します。節電運転は特に長時間バッテリーでの運転を必要とする時や、静かな運転をする場合に使用します。
- ③カテーテルの先端を口腔、咽喉、鼻腔などの処置部に挿入します。
- ④吸引圧力が不足したとき、または強い場合は強弱ツマミをゆっくり回し、真空計の目盛りを見ながら徐々に吸引圧力を加減してください。

## 4.使用後の取扱いについて

本器を永く、正常にご使用いただくため、使用後の処置は大切です。次の手順に従ってお取り扱いください。

- ①吸引が終了しましたら、精製水または滅菌水などを吸引し、ホースの目詰まり等の洗浄を行ってください。ぬるま湯(40℃程度)を吸引するとより汚れが落ちやすくなります。
- ②運転スイッチを「切」にし、電源コードを抜いてください。(コードは必ず根元のプラグ部分を持って抜いてください。)
- ③吸引キャニスタの添付文書に従い、吸引物及びキャニスタ・バッグの処理を行ってください。
- ④排気フィルターは洗浄して再使用可能です。汚れが目立ちましたら洗浄してください。
- ⑤吸引ホース、カテーテルホルダーは、洗浄後に滅菌・消毒してください。(在宅の場合は必要に応じて消毒してください。)
- ⑥バッテリーでお使いになった後は、付属の AC アダプターまたは自動車用電源コードで充電を行い、満充電状態にして保管してください。(充電方法に関しては【使用方法等】1.バッテリーの充電のしかたを参照してください)

## 5.滅菌・消毒について

【保守・点検に係る事項】1.滅菌・消毒について を参照してください。

## 6.本体の清掃

水で湿らせた布に中性洗剤を少量加えて汚れを落とし、乾いた布等できれいに拭き取ってください。

## 【使用上の注意】

### <重要な基本的注意>

- 在宅において使用する場合は、医師または医療従事者の指導に基づき使用すること。
- 本器及び患者に異常のないことを絶えず監視すること。
- 本器及び患者に異常が発見された場合には、使用を中止すること。
- 電源の電圧、周波数および許容電流値に注意すること。
- 運転スイッチは必ず真空計の針が「0」の状態で「入」にすること。吸引圧力が残ったまま「入」にするとポンプの安全装置により作動しない場合がある。
- 吸引ホースは折れ曲がらないように注意すること。
- 本器は周囲温度 10 から 40℃、相対湿度 30 から 75%の環境で使用すること。
- 電源プラグや、コンセントに「ほこり」を溜めないように清掃すること。〔コンセントが熱を持ち、ほこりに引火することがある〕
- 電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ずプラグを持って抜くこと。〔断線やショートにより、感電や火災などの原因となることがある〕
- 長期間使用しない場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜くこと。
- 吸引ホース等付属品は、使用後の洗浄・乾燥を十分に行うこと。
- 長期間使用しなかった場合は、点検に出すなど作動上の安全を確認してから使用すること。
- 本器を使用しない場合でも、バッテリーは 6 ヶ月に 1 回程度の定期的な充放電または充電を行うこと。(バッテリーが自己放電により完全に放電してしまうと、バッテリーの寿命に影響を及ぼすことがある)
- 自動車で使用する場合は、停車した状態で車内の安定した場所に設置して使用すること。また、エンジンをかけたまま車内の換気に注意して使用すること。(車のバッテリー消耗を防ぐため)

### <不具合・有害事象>

- 1)重大な不具合  
吸引異常(吸引不可・過吸引)
- 2)その他の不具合  
接続部からの気密漏れ
- 3)その他の有害事象  
感染

## 【保管方法及び有効期間等】

### ＜保管方法＞

- 周囲温度-10 から 60℃、相対湿度 10 から 75%の環境で保管してください。
- 水のかからない場所に保管してください。
- 気圧、温度、湿度、風通し、日光、ほこり、塩分、イオウ分を含んだ空気などにより悪影響の生ずるおそれのない場所に保管してください。
- 傾斜、振動、衝撃(運搬時を含む)など安定状態に注意してください。
- 化学薬品の保管場所やガスの発生する場所に保管しないでください。
- バッテリーは温度・湿度が高いほど自己放電が大きくなります。湿度が低く涼しい場所に保管して下さい。

### ＜耐用期間＞

本器(吸引器本体)の耐用期間は、購入後 7 年です(当社データによる自己認証)。ただし、推奨された環境で使用され、次の「保守・点検に係る事項」を実施した場合の耐用期間であり、使用状況により差異が生じることがあります。

### ＜廃棄について＞

本器(構成品を含む)を廃棄する場合は、お住まいの市区町村の指導に従ってください。環境汚染の原因となることがあります。

## 【保守・点検に係る事項】

### ＜滅菌・消毒について＞

詳細については、取扱説明書の「正しい取扱い方」を参照してください。吸引キャニスタの滅菌・消毒方法はディスポ吸引システムの添付文書を参照して下さい。

- ① 病院等の施設での滅菌・消毒方法  
吸引ホース、カテーテルホルダー等は、洗浄後 EOG(エチレンオキサイド)滅菌または消毒剤による浸漬消毒をおすすめします。
- ② 在宅での消毒方法  
消毒剤に浸漬消毒をおすすめします。
- EOG(エチレンオキサイド)滅菌  
EOG(エチレンオキサイド)滅菌を行う場合は 50℃以下で行ない、滅菌後十分にエアレーションを行うなど、残留ガスには十分注意してください。
- 消毒剤による浸漬消毒  
医療従事者の判断のもと、適した消毒剤を選択し、用法・用量を必ずお守りください(消毒剤の添付文書に記載されている濃度を守ってください)。また、消毒後滅菌水などですすぎ洗いし、よく乾燥させてから清潔な場所に保管してください。なお、金属部の腐食を起こす次亜塩素酸ナトリウム、ポビドンヨード、また樹脂の劣化を起こすフェノール、両性界面活性剤系、アルコール系のご使用は避けてください。グルコン酸クロルヘキシジン(ヒビテン液など)、逆性石けん類(オスパン液など)などの樹脂にやさしい消毒剤をおすすめいたします。  
消毒後は滅菌水などですすぎ洗いし、よく乾燥させてから清潔な場所に保管してください。

### ＜使用者による保守・点検＞

#### 点検項目(日常点検)

- 1) AC アダプターおよび自動車用電源コードが変形していないことを確認してください。
- 2) 吸引キャニスタおよび吸引キャニスタの付属品の外観に異常がないか確認してください。
- 3) 接続部やツマミ等に緩みがないことを確認してください。
- 4) 運転スイッチの入/切が正常で、指で吸引ホースを折り曲げ、強弱ツマミを回して、真空計の指針がスムーズに変動することを確認してください。
- 5) バッテリーで使用される場合は、バッテリーが充電されているか確認してください。

- 6) 排気フィルターが汚れていないか確認してください。

点検頻度: 使用前に点検

### 点検項目(保守点検)

点検の項目については、取扱説明書の「保守・点検」のチェックリストを参照してください。

点検頻度: 3 ヶ月に一度

点検により異常が発見された場合には、お買い上げの販売店にご相談のうえ、製造販売元または医療機器修理業者に点検・修理を依頼してください。

### ＜業者による保守・点検＞

#### 点検項目(定期点検)

ゴム製部品などの消耗部品の交換のほか、機能・性能点検を行います。また、必要に応じて消耗部品以外の劣化の進んでいる部品の交換を行います。

吸引器は長時間の使用中にミスト状の吸引物等がポンプ内および配管に浸入します。そのため、吸引能力が次第に初期値に比べて低下しますので、必ず定期点検を受けてください。(有料となります。点検周期については当社推奨)

点検頻度: 2 年に一度

### 消耗部品の交換について

- 本器に搭載されているバッテリーは交換が可能となっております。バッテリーは常温で約 300 回の充電が限度ですが使用期限や頻度、保管条件等により充電回数は変わります。満充電状態で動作させ 10 分程度で本器の動きが弱くなるか止まってしまう場合が、バッテリーの蓄電能力が低下した目安になります。お買い上げの販売店にご相談の上、交換用バッテリーをご購入頂き、交換して下さい。詳しい交換方法は取扱説明書の「バッテリーについて」を参照してください。
- パッキン、Oリング、フィルター、ホース類は消耗部品です。破損、ヒビ、変形等が見られる場合には速やかに当社純正部品に交換してください。交換部品については販売店へご連絡ください。また、パッキン等のゴム製部品およびプラスチック製部品は経年劣化しますので、定期点検を必ず受けてください。

### 修理について

お買い上げの販売店にご相談のうえ、製造販売元または医療機器修理業者で行ってください。

### ～お願い～

本器を修理として戻される場合には、滅菌または消毒を行った後にお戻しください。なお、感染症等の恐れがある場合にはお受け取りできませんので、あらかじめご了承ください。

## 【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

発 売 元: 新鋭工業株式会社

東京都文京区本郷 3-12-5 03-3816-0444

製造販売元: 株式会社三幸製作所

埼玉県さいたま市西区中釘 652 048-624-8121